

心をよつめる

その二十

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

掃除の法話

私の自坊、大雄寺は九州最北端、関門海峡を見渡す門司の山中にあります。足元には観光地としてちよつと有名になった門司港レトロが広がり、海と関門橋の向こうに本州・山口県、武蔵と小次郎の決闘の舞台、巖流島も望むことが出来ます。息を切らして参拝が上がって来られた多くの方が「素晴らしい見晴らしだ」と褒めてくれます。でも正直な方は「ひどい山道で上がってくるのが大変だけど」と付け加えます。そんな山の中、木々の狭間にあるお寺ですので毎日境内の掃除は重労働です。今は父母が主となり掃除をしてくれておりますが、これを引き継いでいかねばならない、と考えると先が思いやられます。

ある時、父と母それぞれに尋ねたことがあります。「どうせすぐに落ち葉は落ち、雑草も生えてくるのだから、



時間を掛けて掃除なんてする意味はあるのだろうか？」返答は揃ってこうでした、「きれいにしている方がお参りに来た人が気持ちいいでしょう」と。

「一期一会」とは茶道の心を表す言葉として有名です。茶の湯を完成させた千利休の弟子 山上宗二（やまのうえのそうじ）が書いた手記「山上宗二記」に次のようにあります。

「常の茶の湯なりとも、露地へ入るより出でるまで、一期に一度の会のように亭主を敬畏すべし、世間雑談、無用なり」見知った相手といつも通りの茶会であっても、その時その場で会うのは一期（一生涯）で一度きり。であるならどんな時でも精一杯の気遣いと心配りを尽くすことが大切なんだと、言っています。

この茶の湯の精神が、近年世界から注目される、日本のおもてなしに繋



日鍾宗 大雄寺
刀禰 弘道 さん

「毎月 30 日 10 時より正座と唱題行を行っております。」

がっていくのです。

また「おもてなし」とは裏表がないこと、内心嫌々やっているようではおもてなしにはならず、一期一会のつもりで真に相手を思い遣って行動しなければならぬのです。

さて自宅に仏壇のある方は思い浮かべて頂きたいのですが、仏壇にはお花（仏花）をお供えていることと違います。さてこの花はどちらを向いているでしょうか？

花は正面に座る我々の方を向いているはずですが、その香りと目に入る美しさで人の心を清浄にする。清浄な気持ちで先祖様を拝む、そのためにお供えされているのです。これと同じようにお寺に来た方には清浄な気持ちで仏様に手を合わせて頂きたいものです。

現代社会は対人関係の複雑化、お金と時間に縛られた生活、そして新たにコロナの問題等々、ストレスの多い世



お寺の境内から望める関門海峡

の中で、みんな精神的に疲れ切ってしまいます。そんな中でもお寺をお参りする方が、たとえ一時でも気持ち清々しくなれるように、私も嫌がらずに掃除の修行に取り組んでいきます。



大雄寺
門司区庄司町 19-6
TEL 093-321-2178